

パン、だいすき

おだんごぱん

せた ていじ やく わきた かず え 福音館書店 E-ワ

むかし、おじいさんが、おいしいものがたべたくなって、おばあさんにおだんごぱんをつくってくれ、といました。そこで、おばあさんは、こなをあつめて、クリームをまぜて、だんごにまるめて、バターをぬって、おだんごぱんをつくりました。ところが、おばあさんが、まどのところにおいてひやしていると、おだんごぱんはころがりだして、おもてにでていってしまいます。

マフィンおばさんのぱんや

竹林 亜紀 さく 河本 祥子 え 福音館書店 E-コ

アデルジャンジャンのまちにあるマフィンおばさんのぱんやには、アノダッテというおとこのこがいました。じぶんがぱんづくりをおぼえたら、もっとマフィンおばさんをてつだってあげられる、とおもったアノダッテは、あるよる、そーっとちかしつにおりていき、ぱんづくりをはじめます。

からすのパンやさん

かこ さとし 絵と文 借成社 E-カ

いずみがもりのからすのパンやさんには、オモチちゃん、レモンちゃん、リンゴちゃん、チョコちゃんのよんわのこどもがいます。よんわがおやつにおとうさん、おかあさんがつくったしっぱいパンをたべていると、ほかのからすのこどもたちが、そのパンをほしがりました。そこで、よんわはおとうさん、おかあさんをてつだって、たくさんのパンをやくことにしました。

パンの絵本

農山漁村文化協会 596-パ

パンというと、^{しょく}食パン、^{かし}ロールパンや^{かし}菓子パンなどを思いうかべることが多いと思います。でも、^{しろ}白くてフワフワふっくらとしたパンだけがパンではありません。ふくらんでいないインドのチャパティや、^{むぎ}ライ麦を使ったドイツの^{くろ}黒パン、^{だい}ピザの台などもパンの仲間です。^{せかい}世界には、^{しゅるい}ものすごくたくさんの^く種類のパンがあつて、それぞれのお国柄があらわれています。

つるばら村のパン屋さん

茂市 久美子 作 講談社 913-モ

くるみさんは宅配専門のパン屋で、いずれは、村の駅前にお店がもてるといいな、とおもっていました。ある夜のこと、家の戸口に、蓄音機と小さなつぼがおかれていました。そして、そえられていた手紙には、パンをつくるときに、つぼの中のタンポポのはちみつをいれて、蓄音機でレコードをきかせてください、と書かれていました。

魔女の宅急便

角野 栄子 作 福音館書店 913-カ

魔女のキキは、十三歳の満月の夜に、ひとり立ちするために両親のもとから旅立ちました。キキは、海辺にある大きな町におりたちましたが、町の人たちは、キキに関心をしめしません。しょんぼりして、あちこちうろついていたキキは、パン屋さんにたどりつき、おかみさんのたのまれごとをして、おれいにバタパンをもらいます。それから、そのパン屋さんの粉置場をかりて、宅急便屋をはじめることにします。

ハイジ（上・下）

ヨハンナ・シュピリ 作 上田 真而子 訳 岩波書店 943-ス

ハイジはアルプスで、おじいさんと山小屋にいらしていましたが、ある日、おばさんがやってきて、フランクフルトにあるお屋敷につれていけます。お屋敷では、食事のときに、やわらかい白パンができました。ハイジは、固い、黒パンを食べられないペーターのおばあちゃんにあげようと思い、白パンをポケットにいれて、部屋に持って帰ります。